

パンのパン屋さん

町田第一小学校 五年

関口 朋也 せきぐち ともや

これは、あるパン屋さんのお話です。コロコロ、モチモチ、ここではいろんな味のパンがパン達の手でくふうされて作られています。ところでのう厚なクリームの入ったクリームパン、ふんわりと焼けて食べたら口がとろけてしまいそうなメロンパン、どれもみんなすてきで美味しそうなパンです。

「俺が一番だ。」「ちがう！おらが一番だ。」

おや？ パン達が何かを争っています。そう、このパン屋さんでは、毎月パンのパトル大会が開かれるのです。色々なパンの代表者が出てパトルをします。代表者はなぐり合うのではなく、自分のパンの一部をちぎってしんさ員のフランスパンに食べてもらうのです。パトルが終わった後に結果発表をフランスパンがします。ドキドキ、パン達はきんちよう感に包まれて、パン屋さんは誰もいないかのように静かになりました。その結果、今月はやさしい味のクリームパンに決まりました。

このようにしておすすめが決まり、その毎月のおすすめが有名になり街中にいや、世界に知られるすてきでちよつと不しぎなパン屋とひょうばんになり、今でも東京、日本、世界をたびしてパン屋をやっています。もしも、このパン屋さんを見つけたら、今おすすめ、クリームパンを半かくして待ってます。

審査員講評 *****

パンがパンを作っているというアイデアに惹かれました。登場するパンもじつにおいしそうで、読んでいてお腹が空いてきます。一番を決めるための大会の審査員にフランスパンを選んだセンスもとても好きです。ラストの「半かく」にもサービス精神があふれていて、お店に行ってみたくありません。とても平和で、かわいらしい一作でした。

―― 田丸 雅智